

平成28年度事業報告

東大阪大学附属幼稚園

1、はじめに

平成28年度は土曜預かり保育をはじめ、「働くママを応援します」プランを推進し、幼稚園教育を柱にしながら、預かり保育、短縮保育期間の見直し、冬季、春季、夏季の預かり保育日の増加など、保育園での保育日数に近づける努力をした。内側を質の高い教育を提供できる幼稚園、外側を保育園と同じように預かってもらえる幼稚園とし、「3歳になれば幼稚園」「働いていても幼稚園」の運営に努力した。詳細は下記のとおりである。

2、土曜預かり保育の実施、

平成28年度より土曜預かり保育の実施をした。しかし、年間2回の利用で終わったが、29年の入園者の中に、保育所や保育施設から転園してきた園児が年中で3人、年少で15人おり、4月の土曜預かりは1回目から2人の利用があるなど、本園の土曜預かりを含め「働くママを応援します」プランが保護者に周知されてきた。希望者5日間給食制度や、長期休業中の預かり保育の実施日数を多くすることなど、外側保育園化は園児獲得に効果があった。次年度へ発展させていきたい。

3、幼稚園教育の質の充実

これまで、本園の教育内容や行事は保護者より大きな評価を得てきたが、新しい幼稚園教育要領に合わせて配慮児研修と共に「アクティブラーニング」の研究保育を行い、教育の質の向上を目指した。5回の研究保育で園児たちの「子どもの心を子どもの心に、子どもの目を子どもの目に」のテーマでの研修は、保育内容の向上に効果があったと思える。また、新採用の若年の教員も増えてきたこともあり、今後も研修を重ね、幼稚園としての保育の質の向上を目指し、園児獲得につなげていきたい。

4、2歳児未就園体験保育（サクランボルーム）の充実

過去数年、サクランボルームの体験者数と3歳児入園者数が比例してきていることから、体験保育の内容を充実させ多くの体験入園者数を獲得してきた。職員体制も年少・年中・年長主任と同等の位置づけをし、担当教員も経験豊かな教員と新任教員の組み合わせなど工夫し、保護者が信頼でき、且つ、親しみやすい雰囲気づくりに努力をした。結果、40人を超える新入園児を獲得し、29年度も4月現在40人を超える入級希望者を獲得できている。28年度はできる限り3歳児の幼稚園教育や行事に参加させ、本園の年少から年長児の園活動に合わせて年間の指導計画をたてたので、保護者にも好評であったように思われる。2歳児の体験入園であることを考慮しながらも、幼稚園でしかできないような活動を多く実施し、内容を高められたように感じる。来年度も新しい取り組みを視野に入れながら内容の濃い体験入園の活動ができるように工夫していきたい。

5、幼稚園ホームページ・ブログの内容充実

入園者のアンケートからも「ホームページを見て入園を決定した。」との記述が多くあった。特に転勤に伴う地縁のない保護者はほとんどがホームページの内容を検討して入園を決めている。今年度は在園児保護者向けの幼稚園での園児の活動を動画と静止画を工夫し、多く配信した。閲覧者数も毎年多くなり担当職員が多い月では、30回以上、年間では160回の更新をした。また、課外活動の内容や課外活動の後のバスでの送迎など細かな内容もブログを通じてよくわかったとの声も多く寄せられている。次年度も多くの情報が保護者によくわかるように工夫をし、園児獲得の努力をしたい。

6、本園の特色ある取り組みの充実

本園の特色の一つとしての自然体験学習、「キッズファーム」でのイチゴ、サツマイモ、ジャガイモ大根の栽培収穫の取り組みは、従来から保護者園児にとって人気がある。[自然]領域の学習と共に[食教育]の一環としても大切な取り組みでもある。平成28年度も園庭の花壇の整備・ニワトリ、ウサギ、シカと共に、教職員と園児が毎日世話をし、園児の教育や環境整備の一環として取り組んできた。次年度も、この特色を大きく幼稚園の魅力として打ち出し、園児獲得の役

に立てていきたい。

7、卒園児の休業中の預かり保育の実施・小学校との連携

平成28年度の夏季休業中の小学生の預かり保育は、6日間実施し合計186人の卒園生を受け入れた。子ども、保護者にも好評である。また、接続小学校との配慮児の引継ぎも実施し、支援学級入級に際してや、通学に際する配慮事項等、親子面談を園長、担任とで実施している。今後も、引継ぎ園児が増加の傾向にあるので継続して実施したい。

8、次年度に向けての課題

ここ数年、教員の世代交代が続いているので、研修や学年配置に配慮していきたい。また、土曜預かりの増加や、休業期間中の預かり保育増加に向け、教職員の確保も、事業収支を考慮に入れながらも検討していきたい。